

特集 I

第11回

全国和牛能力

共進会に向けた短期肥育実践



▲JA そうま管内の高百合肥育牛



◀巡回調査を実施し測定などを記録

平成29年9月に宮城県で開催される第11回全国和牛能力共進会は、目的や狙いによって9つの出品区に分類されており、その中で特に注目を集める区として「第7区」があります。この区は各県の次世代を担う若い種雄牛から候補牛を生産し、最終的に雌牛を4頭群、去勢肥育（枝肉）3頭群を出品することで、その種雄牛の能力が総合的に評価される出品区です。

福島では今後の和牛改良を担う「高百合」の産子で出品することが決定し、現在では、候補牛の調査などを進めており、平成28年4月には対象となる肥育農家へ候補牛を移管する予定となっております。

この第7区の去勢肥育に関わる出品条件で特に難しいのが、24ヶ月未満での出品

つまり肥育期間を通常より半年短い期間で仕上げるというところでした。その対応策として、共進会本番の肥育を実施する前に、実際に高百合産子を24ヶ月未満で肥育し、若齢肥育の飼養管理や高百合産子の肥育特長の把握など様々な角度から検証し、本番の肥育に活かすことを目的とした「短期肥育実践」という出品対策を実施しております。

県内9つの肥育農場のご協力を得ながら16頭の高百合産子を肥育してきましたが、いよいよ平成28年1月～3月にかけて福島県食肉流通センターに出荷されることになりました。肥育者及び関係者全員でよく検証していきたいと考えております。未来にかける熱き想い、すべては福島牛のために

この福島県出品対策スローガンを掲げ、全国に福島牛の実力を発信すべく上位入賞目指して今後も取り組んでまいります。

特集 II

平成26年産県域共計対象米穀（出荷米）の
県域共同計算に係る仮精算について

平成26年産米の販売は、原発事故による風評被害の影響はもとより、全国的な過剰作付けによる供給過多が見込まれた中で、早期販売を目指してまいりました。

東京電力に対して、風評被害による販売価格の下落、販売遅延による増高費用などの損害賠償請求を行っている状況ではございますが、毎年実施している精算の時期に合わせて見直しを作成の上、県域共同計算に係る監査、県本部運営委員会の審議を経て、仮精算を実施し、精算金はJAを通じてお振込みいたしました。

平成26年産米の販売に係る県域共同計算の経費は、次の表のとおりになります。

平成26年産 県域共計対象米穀（出荷米） 共計経費一覧

<共計経費単価> (単価：円（税込）/60kg)

項目	算出根拠	共計対象米穀 共計経費単価	上限見通単価 (参考)	上限見通単価 との差	備考	
		I	II	I-II		
経費	流通・保管等に係る経費	①=a~f	1,124.44	1,236.00	-111.56	
	概算金金利 (非課税)	a	49.94	80.00	-30.06	概算金借入金
	保管料・入出庫料	b	557.94	560.00	-2.06	JA保管料及び夏場加算金及び集約保管先の保管料、入出庫料
	保険料・補償料	c	-	-	-	
	運賃	d	346.54	427.00	-80.46	販売に伴う輸送料金
	安全・安心等検査費用	e	0.94	1.00	-0.06	穀検着地検定料等
	集約保管等経費	f	169.08	168.00	1.08	集約に要した運賃
	事故処理経費	②	-	10.00	-10.00	
	手数料	③	151.20	152.00	-0.80	全農手数料
	生産・集荷・販売等に係る経費	④=g+h	117.38	100.00	17.38	
	JAへの支出経費	g	-	-	-	
	広告宣伝経費等	h	117.38	100.00	17.38	ふくしまの米販売促進に要した宣伝・広告費等
	需給調整経費	⑤	-	-	-	
	県産米推進協議会等経費	⑥	2.20	3.00	-0.80	県産米推進協議会への負担金
	監査員会費用	⑦	0.58	1.00	-0.42	共計監査に伴う調査費等
	その他	⑧=i~k	37.00	-	37.00	
	コメ価格センター運営費	i	-	-	-	
	米穀システム開発負担費	j	-	-	-	
	損害賠償協議会留保金	k	37.00	-	37.00	損害賠償請求に係る損害請求留保金
経費計	⑨=①~⑧	1,432.80	1,502.00	-69.20		

(注意1) 上記には、JAでの手数料等経費を含んでおりません。
(注意2) ラウンドの関係で、合計値と内訳が合致しない場合があります。

今後とも、共計経費の削減をすすめ、1円でも多く農家手取り確保につながるよう、今後も努力してまいります。